

## 令和7年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

#### (1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 国語では、多くの領域で市の平均とほぼ同等である。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域では、どの学年も県や国の結果を下回っていた。引き続き、「トークタイム」などを継続して協働的な学びの場を適宜設けて力を付けていく必要がある。また、「書くこと」については、考えを文章化することが苦手な傾向にあるため、自分の考えや、その理由を書くことや段落や字数などに合わせて考えをまとめる学習を意図的に行っていきたい。
- ・ 算数においては、ほとんどの学年が学年差はあるものの技能を身に付け、既習学習を活用しながら問題を解決できる児童が多くいる。しかし、資料の情報を具体的に説明する問題など、活用問題に課題がある児童も見られる。今後も「数学的な見方・考え方」を働かせ学習活動を工夫し、問題を協働的に解決する活動や、数学的な表現を用いて伝え合う活動の充実させていきたい。

#### (2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「授業がわかる」についての肯定割合は、90%を超えている。一方「勉強が好き」の設問の肯定割合は学年が上がると、80%に達していない。また、平均より低い学年もある。
- ・ 「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」や「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」では、市の平均より低い結果である。学習内容は理解できるが、主体的に友達と学び合う楽しさを感じられていない児童が多いと考えられる。自分の考えをもち、理由や根拠を明らかにして文章を書く実践を継続していく必要がある。
- ・ 「本を利用して学習に関する情報を得ている」の設問は、全学年が市の肯定割合を上回っている。今後も、学習で必要な情報源としてインターネットと共に本を活用する場を設ける。
- ・ 平日の家庭学習時間は、宇都宮市の平均より高くなっている。しかし、勉強は好きではないと考えている児童が多い。楽しく学習を継続していけるよう課題を工夫していく。

#### (3) 授業等への取組状況から

- ・ 全校で授業の流れを統一し、児童が安心して学習に取り組める環境作りに努めたことで、学習課題に進んで取り組む姿が見られる。自力での課題解決の場を意図的に設け、ペア学習で意見を伝え合う場を設けたことで、全体に広めたり自分の言葉で伝えたりできるようになってきた。今後も、協働的学び合いの工夫や、児童の思考を促す発問、児童の意見をつなぐ教師のコーディネート等についてもさらに研究を進めていき、児童が共に学び合う力を育て、学習することが楽しいと感じる授業の展開を目指していきたい。

## 2 今年度の重点目標

学ぶ意欲:を高めながら、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力を  
はぐくむ学習活動の展開に努める。

## 3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和7年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

### (1) 授業実践の工夫（年間を通して）

- ★□○児童自身が、知りたいという意欲をもって学習できるような学習課題の設定を行う。
- ★□○児童同士が学び合える活動等を工夫し、多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見い出したりして、多面的・多角的な視点から課題解決できるようにする。
- ★□○終末の振り返りでは、各教科の特性を生かし、単元、学年、他教科等の学びや生活の改善などに関連付けられるようコーディネートしていく。
- ★□○資料を活用し、読み取る力を育成し、情報を活用して自分の考えをまとめられるよう意図的な場を設けていく。
- ★□○モジュール学習をしっかりと行い、基礎・基本の学習の徹底を図る。
- ★□○学習内容や発達段階にに合わせて ICT機器や図書等を効果的に活用し、児童の理解や思考が深められる授業を行う。
- ★□○特別の教科道徳を軸として、国際理解の感覚をもって授業の展開や教師の問いかけを心掛けていく。

### (2) 計画的・継続的な研修の工夫

- 他者との学び合いを通して、課題解決の楽しさを実感できる授業の展開  
～各教科の特性を生かした協働的な学び合いの実践～  
を目指した各教科での一人一授業の実施（通年）と各部による研究協議の実践

### (3) 家庭・地域との連携・協力

- ★「家庭学習スタンダード」を配付し、家庭と連携・協力することで宿題や自主学習等の家庭学習を習慣化できるようにし、基礎・基本を確実に習得ができるようにする。
- ★地域コーディネーターと連携・協力することで、ボランティアを活用した教育活動を充実させる。